

令和元年度 島田市総合計画市民意識調査の結果について（報告）

表題について、以下のとおり調査を実施しましたので、結果について報告します。

1 調査の概要（報告書 p.2）

市民意識を調査し結果の経年変化を分析することにより、施策の評価や総合計画の進捗管理のための基礎資料とすることを目的とする。

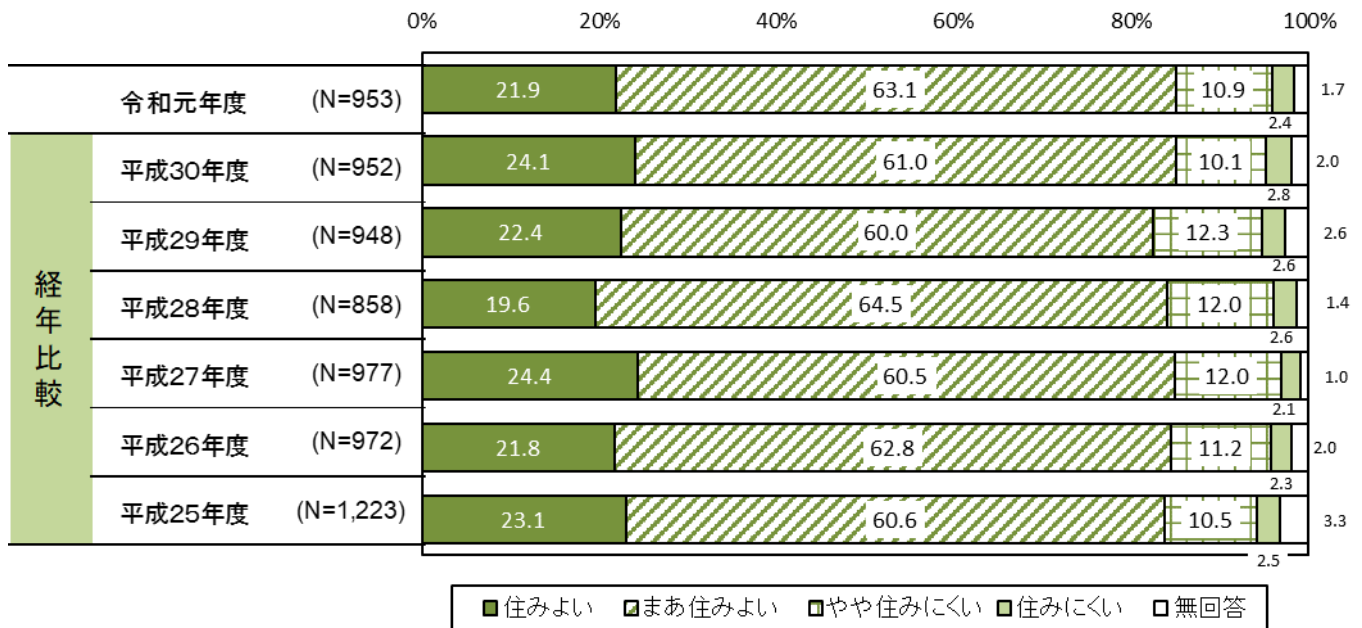
調査対象：市内在住の18歳以上の男女2,500人	実施期間：令和元年6月6日～7月11日
調査方法：郵送調査法（WEB回答も可）	有効回収数：953票（前回952票）
抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出	有効回収率：38.1%（前回38.1%）

2 調査結果（報告書 p.14～）

●島田市での暮らしについて（報告書 p.17～）

島田市の住みごちについて、85.0%の人が『住みよい』と回答しています。

「住みよい」21.9%、「まあ住みよい」63.1%を合わせると85.0%となり、前回調査結果（85.1%）から横ばいで推移し、平成25年度以降、8割を超える割合を維持しています。

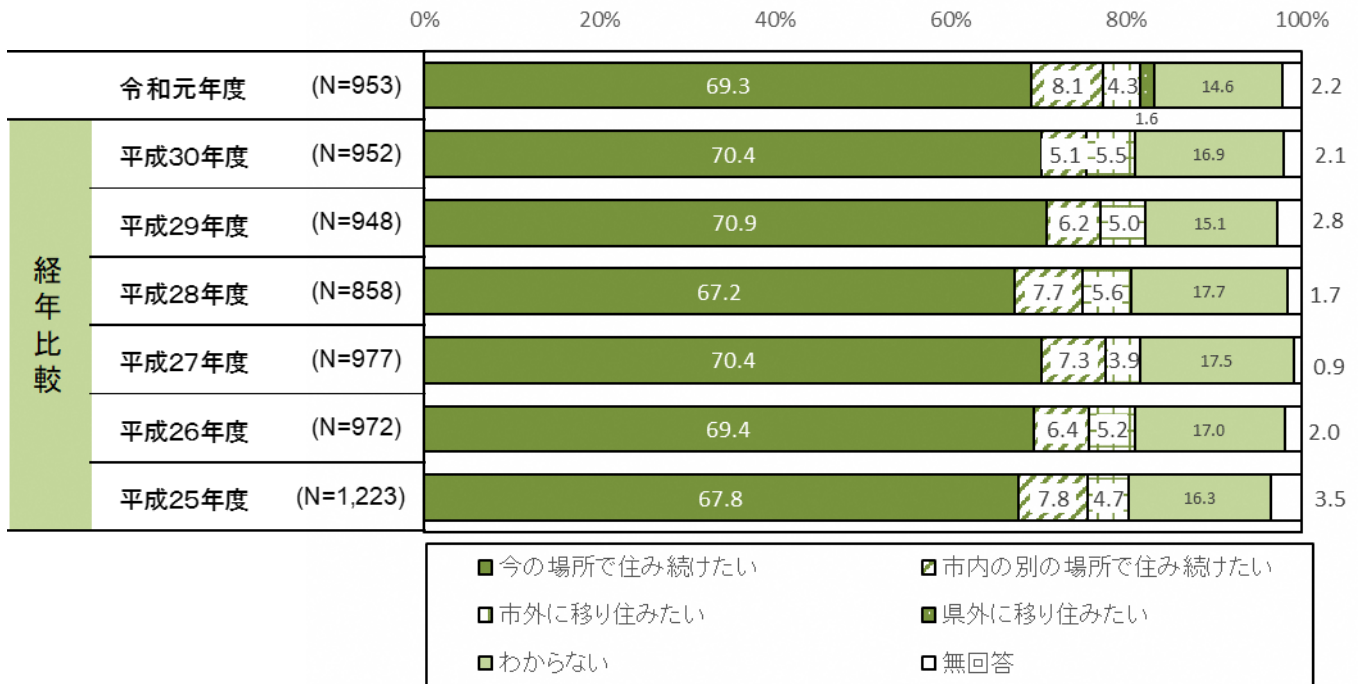


※県内他市調査結果（参考）

- ・藤枝市…『住みやすい』79.1%(H26) 設問「あなたにとって藤枝市は住みやすいですか。」  
「たいへん住みやすい」32.4%「やや住みやすい」46.7%
- ・焼津市…『暮らしやすい』65.8%(H30) 設問「焼津市は暮らしやすいところですか。」  
「暮らしやすい」27.4%「どちらかといえば暮らしやすい」38.4%
- ・菊川市…『住みやすい』86.7%(R01) 設問「菊川市は住みよいところだと感じますか。」  
「住みやすい」24.8%、「どちらかといえば住みやすい」61.9%
- ・掛川市…『住みやすい』75.8%(R01) 設問「あなたにとって掛川市は住みやすいところですか。」  
「とても住みやすい」17.1%「どちらかと言えば住みやすい」58.7%

島田市への定住意向について、77.4%が『これからも島田市に住み続けたい』と回答しています。

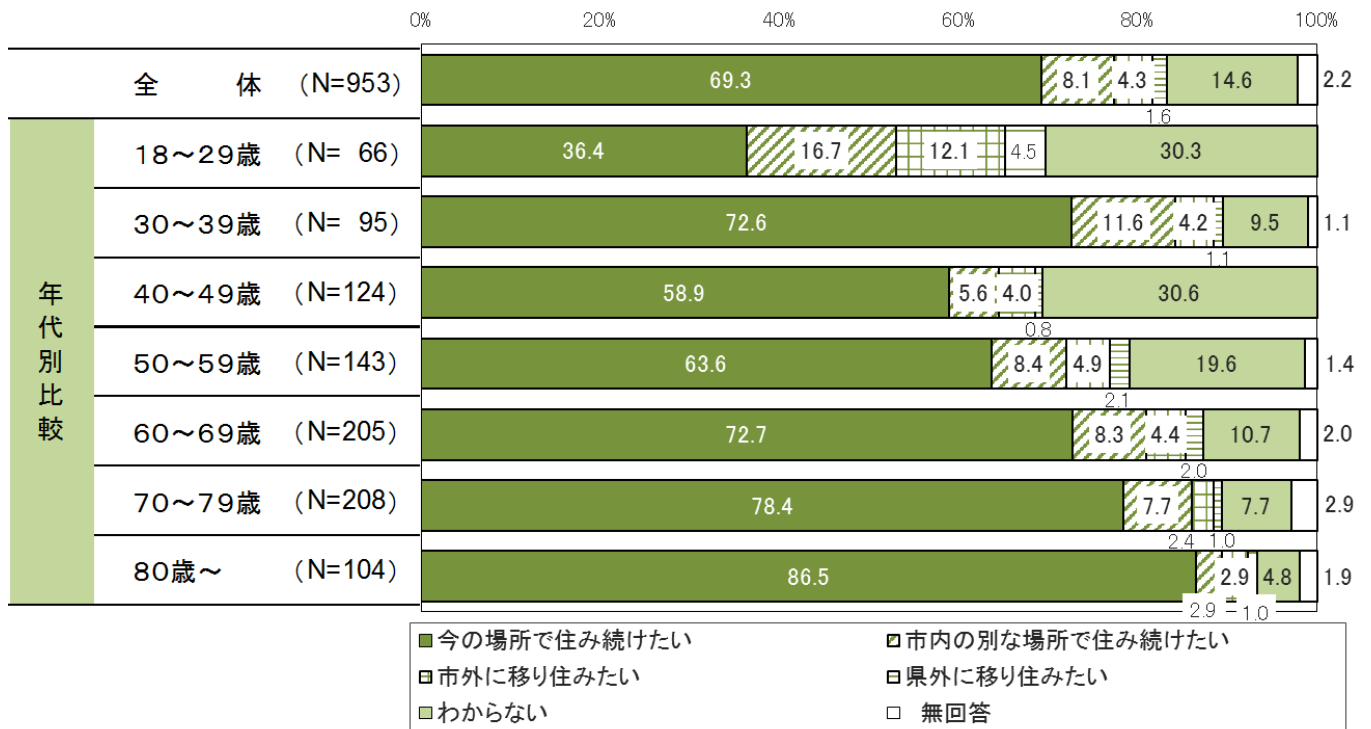
「今の場所で住み続けたい」69.3%、「市内の別の場所で住み続けたい」8.1%を合わせると、77.4%となり、前回調査結果（75.5%）と比較し1.9ポイント高くなり、平成25年度以降、7割を超える割合を維持しています。



### ※県内他市調査結果（参考）

- ・静岡市…『住み続けたい』：87.1%(H30)  
設問「あなたは、これからも静岡市に住み続けたいと思いますか。」  
「そう思う」56.4%「ある程度、そう思う」30.7%
- ・藤枝市…『住み続けたい』：90.1%(H26)  
設問「これからも、現在の場所に住み続けたいと思いますか。」  
「住み続けたい」81.3%「できれば転居したい（市内に）」8.8%
- ・焼津市…『住み続けたい』：69.9%(H30)  
設問「あなたは、これからも焼津市に住み続けたいと思いますか。」  
「住み続けたい」：40.4%「どちらかといえば住み続けたい」29.5%
- ・菊川市…『住み続けたい』：61.6%(R01)  
設問「今後も菊川市に住み続けたいと思いますか」
- ・掛川市…『住み続けたい』：82.3%(R01)  
設問「あなたは、今後も掛川市に住みたいと思いますか？」  
「今のところずっと住み続けたい」75.0%「市内の別の場所に移り住みたい」7.3%

定住意向について、回答者の年代別に集計してみると、回答者の年代が高くなるにつれて、定住意向が高くなっています。こうした中、30歳代については、高い定住意向がみられます。

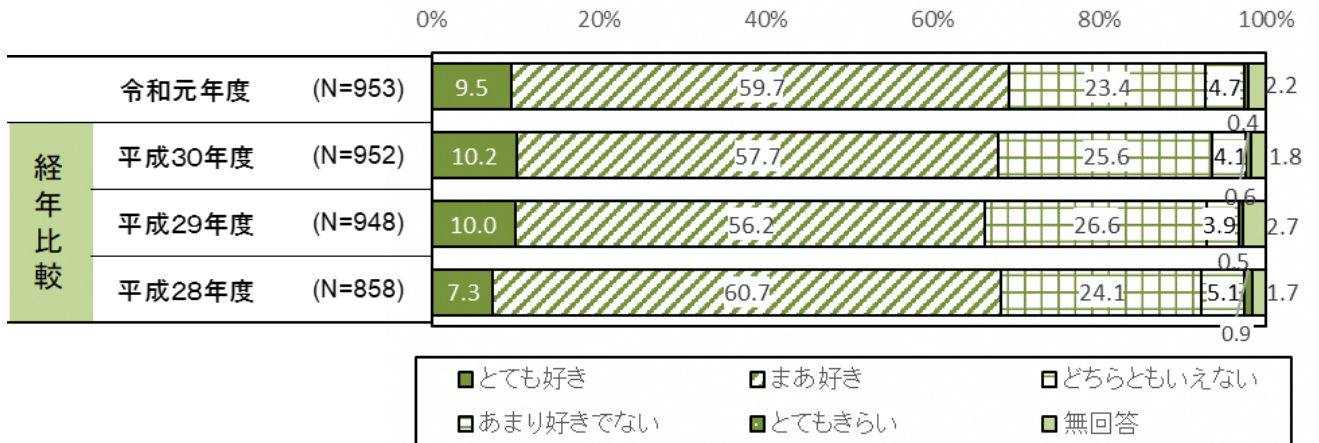


●島田市に対する好感度について（報告書 p.28～）

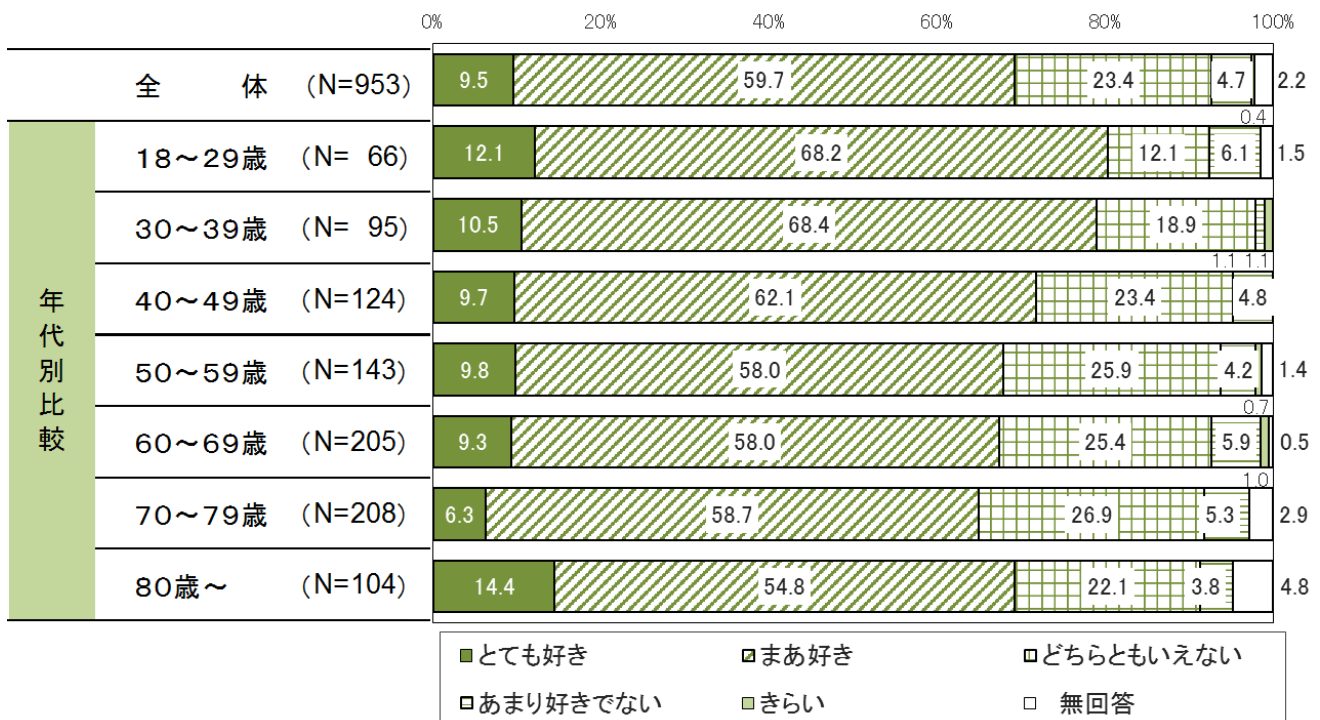
島田市に対する好感度について、69.2%が『島田市のこと好き』と回答しています。

「とても好き」9.5%、「まあ好き」59.7%を合わせると69.2%となり、前回結果（67.9%）と比較し1.3ポイント高くなりました。

調査を開始した平成28年度以降、ほぼ同水準で推移しています。



好感度について、回答者の年代別に集計してみると、回答者の年代が低いほど、島田市に対する好感度が高くなっています。



●島田市の取組に対する満足度と重要度について（報告書 p.67～）

満足度（点数）※が高いのは、7年連続で「ごみ・リサイクル対策」（第1位）、「健康の増進」（第2位）です。

重要度（点数）※が高いのは、「医療の充実」（第1位）、「地震・水害など災害に強いまちづくり」（第2位）です。

令和元年度順位	満足度（点数）	重要度（点数）
第1位	ごみ・リサイクル対策	医療の充実
第2位	健康の増進（健康診断や予防対策）	地震・水害など災害に強いまちづくり
第3位	身近な生活環境の保全	犯罪防止対策

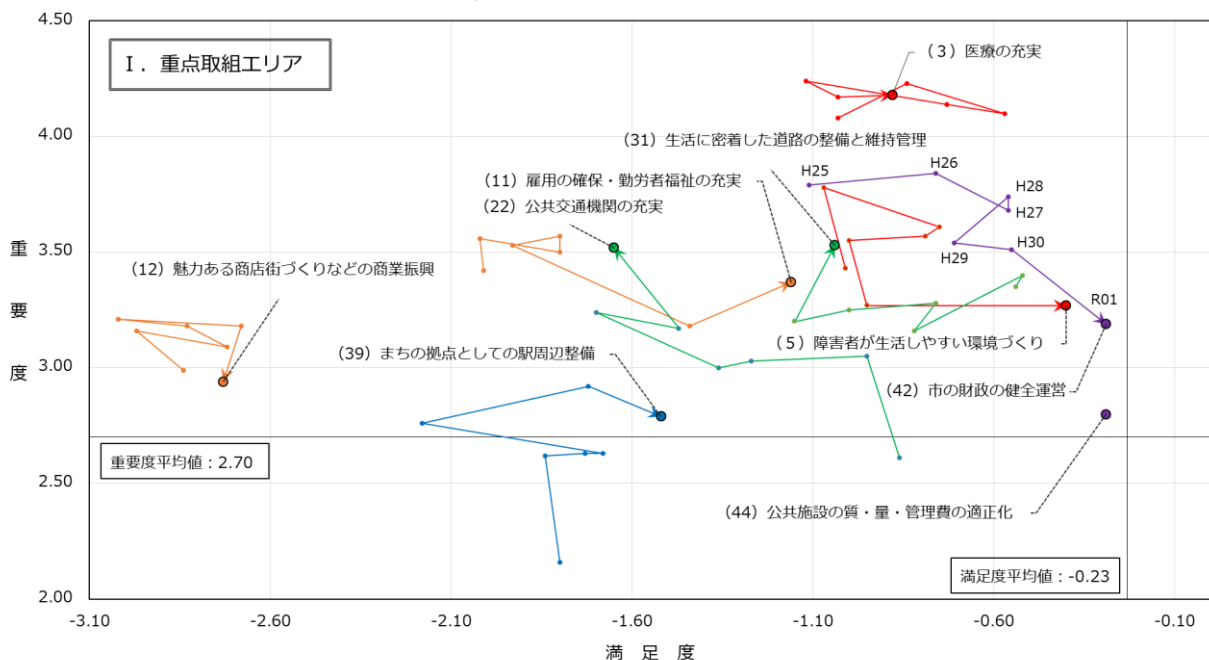
※満足度（重要度）の回答を点数化（5点、3点、0点、-3点、-5点）し、その平均値を計算した指標です。

令和元年度調査結果において、満足度が低く重要度が高い「重点取組エリア」に属しているのは以下の9項目です。

<p>政策分野1＜防災・福祉・健康について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（3）医療の充実</li> <li>・（5）障害者が生活しやすい環境づくり</li> </ul>	<p>政策分野3＜産業について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（11）雇用の確保・勤労者福祉の充実</li> <li>・（12）魅力ある商店街づくりなどの商業振興</li> </ul>
<p>政策分野4＜環境・自然について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（22）公共交通機関の充実</li> </ul>	<p>政策分野6＜都市基盤について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（31）生活に密着した道路の整備と維持管理</li> <li>・（39）まちの拠点としての駅周辺整備</li> </ul>
<p>政策分野7＜行財政について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（42）市の財政の健全運営</li> <li>・（44）公共施設の質・量・管理費の適正化</li> </ul>	

※政策分野2及び5については、「重点取組エリア」に属する取組はありませんでした。

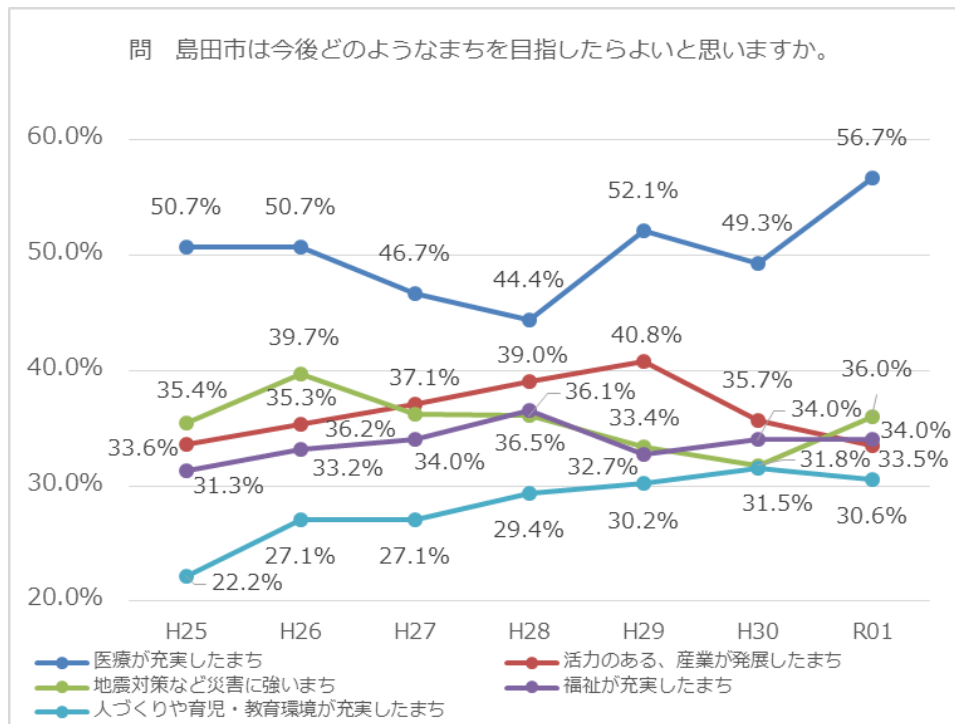
重点取組エリアに属する取組項目の経年変化を見ると、（5）障害者が生活しやすい環境づくり、（11）雇用の確保・勤労者福祉の充実、（42）市の財政の健全運営などについては、満足度の改善が図られていることが分かります。



●今後の市政の取り組みについて（報告書 p.84～）

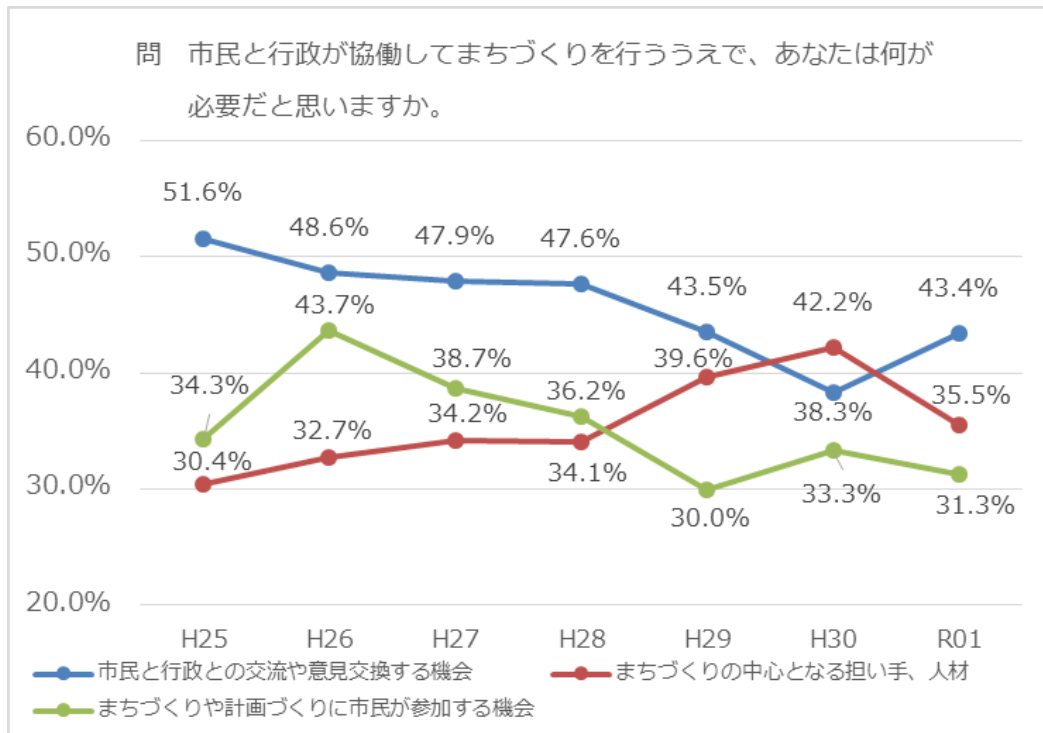
「島田市は今後どのようなまちを目指したらよいと思いますか。」の問いに対する回答の上位5項目（「医療が充実したまち」「地震対策など災害に強いまち」「福祉が充実したまち」「活力のある、産業が発展したまち」「人づくりや育児・教育環境が充実したまち」）は、平成26年度から継続して、上位を占めています。

「医療が充実したまち」と回答した割合は56.7%となり7年連続で第1位に位置しています。



●市民協働の取り組みについて（報告書 p.88）

これからのまちづくりを進めていくうえで、市民が必要だと思う事項は「市民と行政との交流や意見交換する機会」「まちづくりの中心となる担い手、人材」「まちづくりや計画づくりに市民が参加する機会」が上位3位を占め、過去7年間と同じ傾向が続いています。

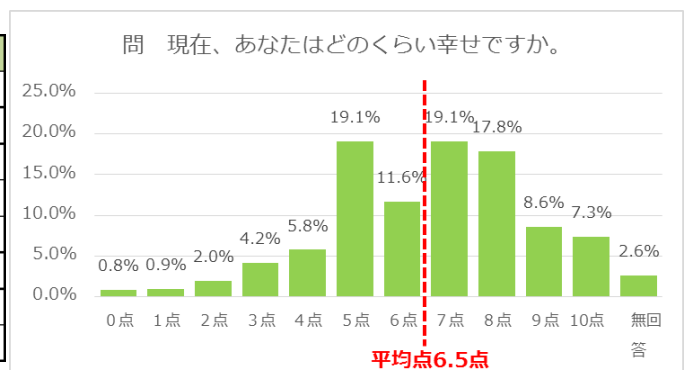


●市民の幸福感について（報告書 p.89～）

市民の幸福感を点数化すると、平均6.5点/10点満点（全国平均6.4点）で、過年度と比較し微減となりました。なお、回答のばらつき（分散）は、例年並みで、平均点を境に前後の得点、5点、7点、8点に回答がまとまる傾向が続いています。また、男性の平均点よりも、女性の平均点の方が高い傾向に変わりはありません。

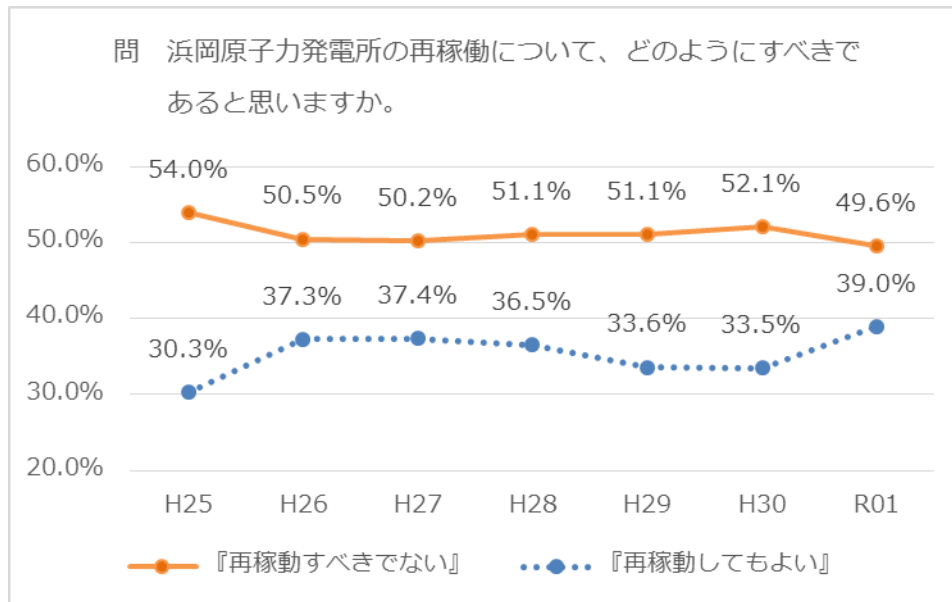
幸せであるために重要な事項については、上位から「健康状況」「家計の状況（所得・消費）」「家族関係」「精神的なゆとり」「友人関係」で、平成25年度調査以降、上位5項目に変化はありません。

		平均点(無回答を除く)
島田市	令和元年度	6.5
	平成30年度	6.6
	平成29年度	6.6
	平成28年度	6.6
	平成27年度	6.7
	平成26年度	6.6
	平成25年度	6.7
全国	平成26年	6.4



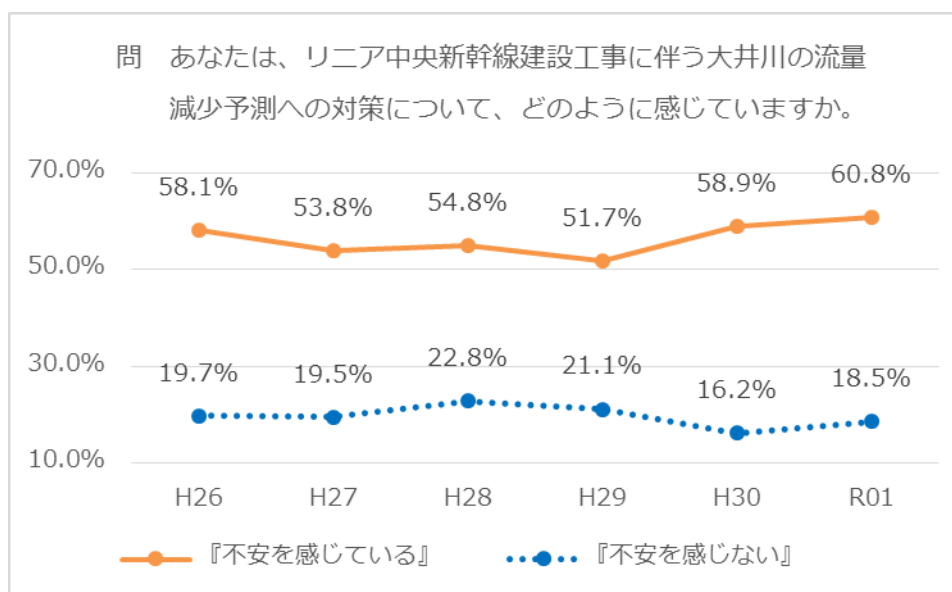
●浜岡原子力発電所について（報告書 p.95～）

『再稼働すべきでない』と回答した割合は49.6%、『再稼働してもよい』と回答した割合は39.0%となりました。平成27年度以降、『再稼働すべきでない』の回答割合と「再稼働してもよい」の回答割合の差は拡大傾向にありましたが、今年度調査結果では、両者の差が縮小しました。



●リニア中央新幹線の建設工事について（報告書 p.97～）

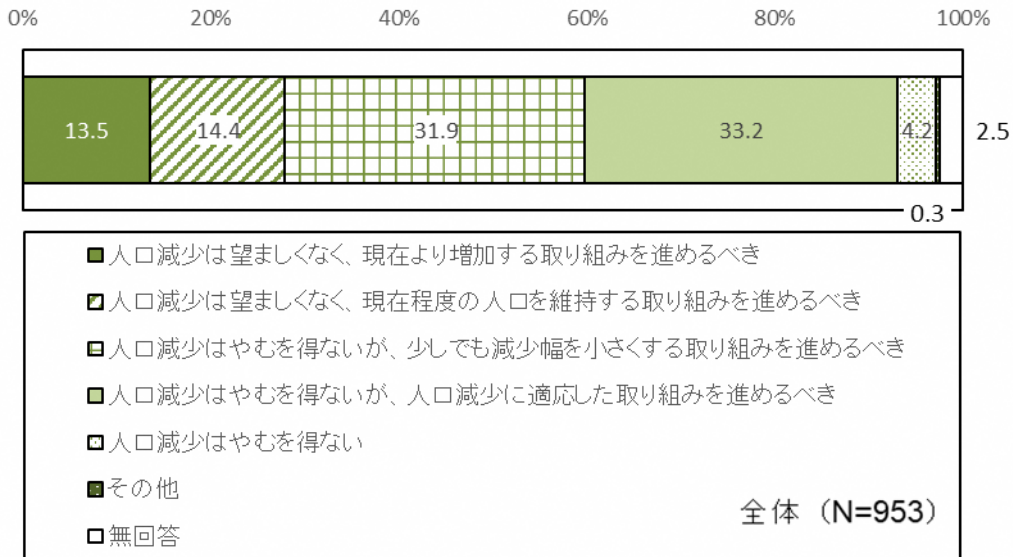
建設工事に伴う大井川の流量減少予測への対策について、『不安を感じている』と回答した割合は60.8%で前年調査結果（58.9%）に比べて1.9ポイント増加しています。一方、『不安を感じない』と回答した割合は18.5%となり、前年調査結果（16.2%）に比べ2.3ポイント増加しています。



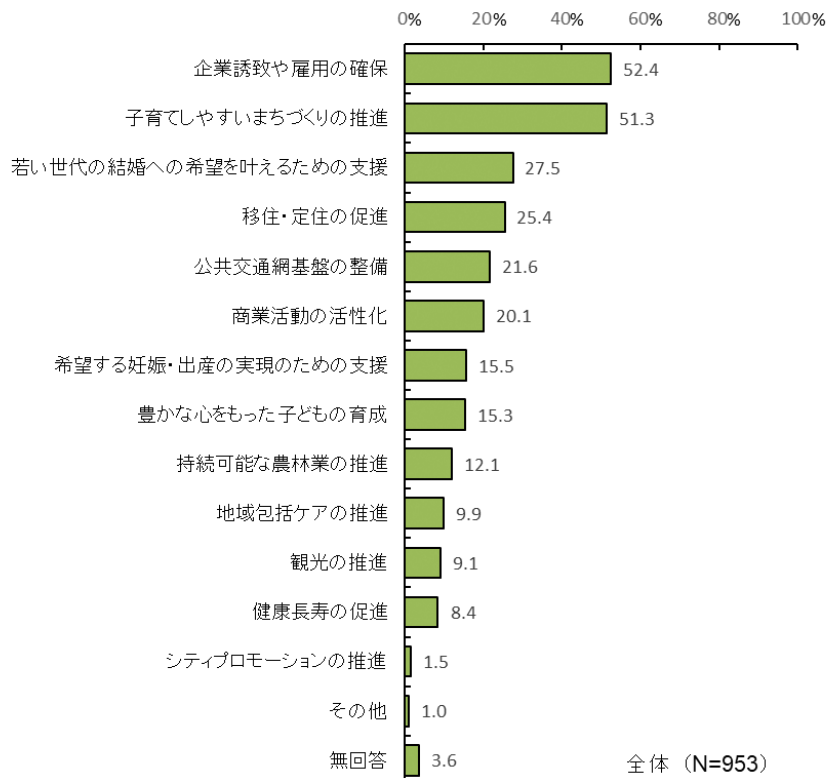


●人口減少社会における取り組みについて（報告書 p.98～）

人口が減少していくことについて、「人口減少はやむを得ないが、人口減少に適応した取組を進めるべき」と回答した割合は33.2%、次いで「人口減少はやむを得ないが、少しでも減少幅を小さくする取組を進めるべき」は31.9%となりました。一方、『人口減少は望ましくない』と27.9%の人が回答しています。



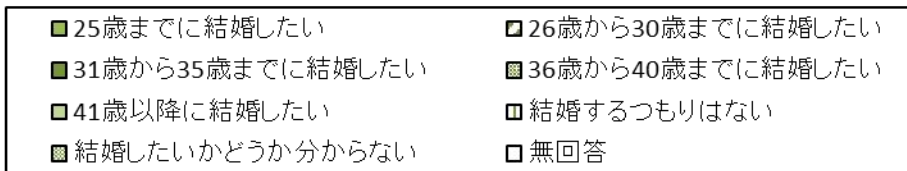
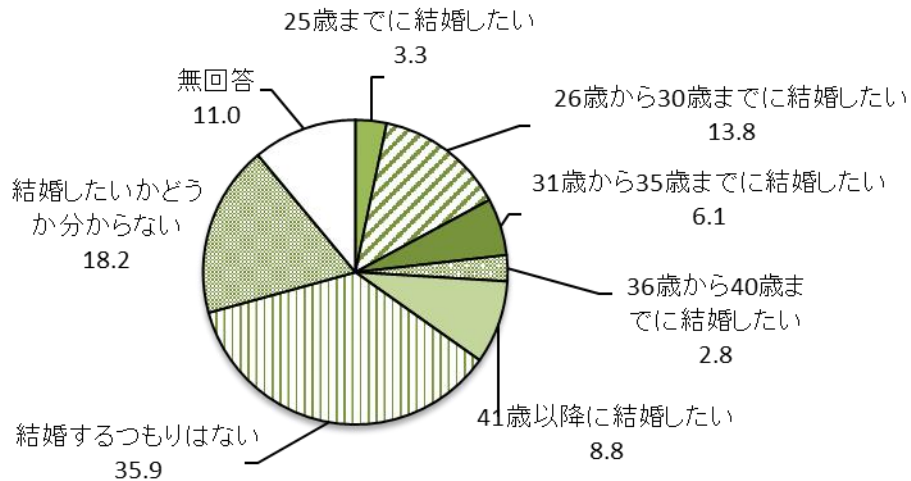
人口減少社会において、持続可能な暮らしやすいまちづくりを行うためには、「企業誘致や雇用の確保」「子育てしやすいまちづくりの推進」が重要な取組であると回答する割合が高くなっています。



●結婚・子育てについて（報告書 p.109～）

婚姻状況について、「独身」と回答した人の今後の結婚に希望について、「結婚するつもりはない」の割合が最も高く、『結婚したい』と回答した人の中では、「26歳から30歳までに結婚したい」と回答する割合が高くなっています。

全体(N=181)

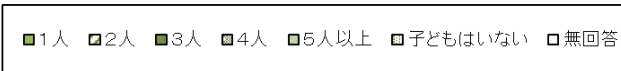
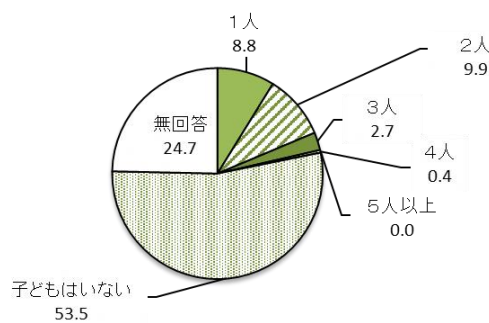


18歳未満の子どもの数について、「実際の数」については平均0.5人※、「理想の数」については平均2.5人※となっています。なお、理想的な子どもの数を実現するために課題となること（なりそうなこと）として、「子育てや教育にお金がかかりすぎる」と回答する人の割合が最も高く65.8%、次いで「子育てを手助けしてくれる人がいない」が24.1%という状況です。

※「子どもはいない」「子どもはいらない」という標本も集計に含む。

問 あなたは、現在、18歳未満のお子さんが何人いますか。

全体(N=953)



問 あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。

全体(N=953)

